

## メディアデザイン学科における「コミュニケーション演習」の教育内容及び方法と実践

### Contents and Methods of Training and Practices of Exercises in Communication in the Department of Media Arts and Design

小松隆行\*

Takayuki Komatsu

#### 概要

本学メディアデザイン学科の開講科目「コミュニケーション演習」の内容と方法、実践例を報告する。この科目では、主に会話とグループワークでの演習により、対面でのコミュニケーション能力の向上を目指す。2人の会話から、4人グループでの会話、5～6人のグループワーク、8人でのディスカッションというように、少人数から徐々に人数が多いコミュニケーション形態を追加しながら実践している。また、挨拶や部屋の入退室の基本動作の習得や、傾聴やその心構えなどへのカウンセリング技法の応用、アサーションやワールドカフェなど最新の要素も導入し、学科施設メディアスタジオも有効活用している内容を報告する。

#### 1. はじめに

本学の未来デザイン学部メディアデザイン学科では、専門教育科目コミュニケーション系科目の必修科目として1年次前期に科目「コミュニケーション演習」を15回開講している。この科目は2012年に新たに開講され、2014年からは必修科目となっている。この授業では、対面での会話を中心にコミュニケーション力や会話を高めることを目的とする。

授業の主体は履修者全員でグループを組んでの対面でのコミュニケーション(会話)の演習である。必要に応じて行われる講義は、PowerPointによる説明とプリント配布の説明で行う。この科目は学科のディプロマポリシー(C) 汎用的技能「正しい言語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力」に対応する。この科目の達成目標は次の通りである。①「話す」「聴く」の2本柱を総合的に学び、より効果的に的確に意見を伝えられるようになる、②効果的な「話し方」の技術と効果的な「聴き方」の技術を学び、実践できるようになる、③1対1と1対多のコミュニケーションができるようになる、④発声・発音、正しい日本語、心構え、表現力を学び、実践できるようになる、⑤聴くことの重要性を認識し聴き上手になるための技術を習得し実践できるようになる。

コミュニケーションは、いかなる場面でも重要で

あるが、就職活動においても、企業側が求める人材の要件で最も多いのが「コミュニケーション能力」である。インターネット上での会話においても同様であり、授業で学ぶ事柄の応用は多岐に渡る。

#### 2. 教育内容と実践方法

授業は基本的に、90分内で講義と演習を交互に行うが、演習の割合は80%程である。各週のテーマと実践内容を以下で説明する。グループワーク3回や実技試験では、学科施設のメディアスタジオも利用している。



図1 メディアスタジオ(旧4310教室, 2017年移設)

第1週: テーマは、ガイダンスと自己紹介マップ<sup>(1)</sup>と呼ばれる自己紹介シートへの記入とそれを用いた2人ペアのフリートークである。2人ペアは、お互いに自己紹介マップを交換し参照しながら、2人の共通点や興味のあるポイントを話題にして6分程度フリートークしてもらう。この時留意するのは、お互い話すこと聞くことの割合を50%ずつにするということである。まずは、学科生全体のアイス

\* 北海道科学大学未来デザイン学部メディアデザイン学科

ブレイクをさせることが大切であるが、ほぼ1回目のトークセッションで打ち解けた雰囲気になる。セッション終了後は、組合せを変えてローテーションし、新たなペアで同様のことを行う。初回の授業で、約6名程度とペアトークを経験する。大学に入学しても友達がまだできていない学生も多い時期だが、この授業をきっかけに友人関係や交流が始まる例も多い。

第2～4週：テーマは、PREP法の基礎／グループコミュニケーションである。第1週と同様に、新たなペアで自己紹介マップ交換のペアトークを行う。同時に、わかりやすい伝え方PREP法を使い、1対1や複数名での会話演習を行う。この回か

表1 PREP法ワークシート（抜粋）

テーマ：自分の長所（自己PR）

P:Point (要点、結論)	「自分の長所は、〇〇です。」
R:Reason (理由、詳細)最大3つ	「理由は2つあります。」または、「詳しく言うと2つあります。」 第1に……。第2に……。
E:Example (例、具体的なこと、体験など)	「たとえば……。」
P:Point (要点、結論)	「したがって、自分の長所は、〇〇です。」

ら4名一組のグループを作って、与えられたテーマでグループディスカッションも行い、意見をまとめ発表することを始める。ディスカッションテーマは、なじみやすいテーマを選定している。例としては、例①「無人島に全員で滞在させられることになった、その時持参するものを3つ選び理由と事例をまとめよ」、例②「20歳以下の若者において、漫画とゲームのどちらかを全面的に禁止にする。どちらを禁止にすべきかとその理由を述べよ」などである。グループディスカッションの流れと、留意すべきことは、事前に提示し、リーダー（モデレータ役）がいてもいなくても（できてもできなくても）、円滑に進められるよう指導を行ったうえで実施している。いずれも実際の就職試験でのGDで出題されているテーマであり、就職活動のための準備にもなっていると言える。2人ペアのフリートークは、初回から毎回異なる相手6名ずつほどと継続しており、第4週までに延べ24人程との会話を経験することになる。メディアデザイン学科1学年は、85名程度であるので、その3～4分の1ほどと短いながらも会話を体験することになる。友達関係や交流が広がり、友達の友達という関係も醸成され始めることが多い。

第5週：テーマは聴き方の基本である。いわゆる傾聴の技法<sup>(2)</sup>を教えながら、少しずつ実践できるようにペアトークを利用して練習する。傾聴の技法は、

キャリアカウンセリングの技法<sup>(2)(3)</sup>と同じものである。また、傾聴の技法だけではなく、傾聴の心構え<sup>(4)</sup>も同時に教え実施できるように指導する。具体的には聴き方チェックシート（表2）を配布し、ペアトーク終了後に振り返りで自分をチェックさせる。相手を変えて同様のことを行い、自己紹介と傾聴練習を同時に行うようにする。

表2 聴き方チェックシート：基本（抜粋）

基本	1	ペン持たない。	
	2	背もたれにもたれない。	
	3	腕組みしない。	
	4	態度も言葉も肯定的に！	
	5	姿勢	
	6	リラックス	
	7	前傾	
	8	表情	
	9	座る位置	
	10	最適距離：75-120cm	
	11	視線	
	12	うなずき、あいづち（適度に、上手に）	

第6週：グループコミュニケーションを兼ねたグループワーク（紙タワーを作ろう！）である。ミニプロジェクトを想定して、90分の中でアクティブ・ラーニング<sup>(5)(6)</sup>のレベル1<sup>(7)</sup>を、すなわち「習得学習」を想定している。くじ引きで編成した5名のグループ毎に1つのタワー（またはオブジェ）をB5のPPC用紙とセロテープのみで制作する。実施場所は、メディアデザイン学科のメディアスタジオである。流れは次の通りである。Step1) ミーティング(15分)：自己紹介後、計画（方針/役割分担/完成形）として、配布されたフォーマットの計画シート（A4）、完成予想図（ラフ）を話し合いで完成させる。Step2) 紙タワー制作(35分)：計画シートと完成予想図に従い、タワーを制作する。時間内にしっかりと形にすることを守らせる。制作中のモチベーションアップや雰囲気づくりのために、BGMを終始スタジオスピーカーから鳴らしている。BGMがあることで、会話もしやすくなる。会話が少ないチームでも沈滞ムードにならず作業が進めるメリットがある。Step3) 自己評価と振り返り(10分)：グループ毎に、方針通り作れたか、特徴やPRポイント、うまくできた点、うまくできなかった点について、個人毎に、役割をこなせたか、頑張った点、感想・気づいた点・印象的な言動や行動、自己評価点をワークシートに記入させる。この後スタジオの設備を使い作品を30秒でプレゼン紹介させる。ハンディHDカメラで、タワーと発表者を学生数人に撮影してもらい、スタジオ内スクリーンとハイビジョンモニターに投影し全員に観てもらう。

第7週：テーマは、聴き方の基本であり、第5週での復習と演習を行う。同様に表3のような聴き方チェックシートを配布し自己評価でチェックさせる。キャリアカウンセリング手法<sup>(4)</sup>の3大原則を3要素として教え、会話で意識させる試みもしている。

表3 聴き方チェックシート：3要素（抜粋）

項目番号	チェック項目	
1	気持ちにスペースを空ける	
2	肯定的な関心	
3	共感	

第8週：テーマは挨拶の基本の復習である。この回では、コミュニケーションの基本である挨拶の基本を教え実践させる。同時に部屋への入退室のチェックポイントも指導する。これらのポイントは、言葉を含め態度などもチェックポイントシートを配布してペアで確認し合う。最終的な実技試験での評価項目として挨拶と入退室を入れているので、担当教員が一人ずつ全員に、実際に行わせてチェックし改善点などを指導する。またこの回でも、GDを行いその振り返りも自己診断チェックさせる。

表4 GDと挨拶／入退室チェックシート

GD	1	適切なコミュニケーションがとれるか？
	2	適切に議論を進められるか？
	3	他の参加者と協調しているか？
	4	構造的にそれら議論を、修正できているか？
	5	他のメンバーに適切な気配りができているか？
	6	時間内に結論を出せたか？
あいさつ言葉とお辞儀	1	真っすぐ立つ。
	2	相手の眼を見る。⇒あるいは、両目とあごの三角形内
	3	「○○○○○○○」と言う。
ノックの仕方	4	しっかりと、お辞儀をする。
	5	（こころとほほ笑む）
	6	叩く場所は、ドアノブ周辺。
	7	軽やかに手首のスナップをきかす
	8	人差し指第2関節で。
	9	ドアを開ける。
	10	一歩進む。

第9週：テーマは、グループワーク（メディアスタジオで30秒PR制作）である。90分の中でアクティブ・ラーニングのレベル2<sup>(7)</sup>、すなわち「活用学習」を想定している。実際のテレビ局のスタジオと同等の機能を持ち、映像を制作できる教室であり、プロ仕様のカメラ・音響機器・編集機器を使用し、オリジナル映像作品を制作することができる。1グループ5名程度になるようグループ編成し、テーマは自由として、TVコマーシャルを想定した30秒のPRを制作する。ワークシートを配布し、ここまで毎回練習してきたPREP法の形式で、30秒という短い時間に十分なPRができるような内容にする。PRはプレゼンテーション形式であるが、写真やスライドなど、その場で用意できるものなら使用は任意という形式で、インターネットからの画像なども使用することも可能とする。30秒の本番は、ス

タジオのカメラで撮影し、グリーンバック映像としてCG映像にコンポジットして、スタジオ内のスクリーンとハイビジョンTVモニターにリアルタイムで映し出し、他の学生がTV放映形式で観られる

表5 30秒PRシナリオシート

チーム番号	役割	氏名
①出演者（複数可）：		
②背景操作者：		
③タイムキーパーほか：		
テーマ（PRするもの）		
方針（Oで囲む）	① 雰囲気：明るい感じ / 元気な感じ / 落ち着いた感じ	
	② テンポ（話す速さ）：速い / 普通 / ゆっくり	

Time	Lap	画像/映像/録音	内容	セリフ
0秒	5秒		P (Point) : 要点	こんにちは！ ぎょうは、_____をPRします！
5秒	10秒		R (Reason) : 理由、少し詳しく	PRする_____の良さは、 「_____」 _____という点にあります。
15秒	10秒		E (Example) : 例	例えば、 「_____」 _____です。
25秒	5秒		P (Point) : 要点	ぎょうは、_____をPRしました！ 皆さん、是非_____してください！ ありがとうございました！！

留意点：① シナリオ原稿を見ながら読んでもよい。  
② タイムキーパーは、残り10秒からカウントダウン（両手の指を折りながら伝える）

ようにする。音声もマイク経由でスタジオ設置の大きなスピーカーから鳴らすようにする。第6回と同様の効果を得るため、グループワーク中はBGMを終始スタジオスピーカーから鳴らしている。

第10～11週：テーマは、ブレイン・ストーミング（BS）とKJ法<sup>(8)</sup>である。BSの4原則は、①批判をしない、②自由奔放、③質より量、④連想と結合であり、グループで効果的な意見の出し方と整理の仕方ができるようになる。これによりKJ法ワークシート完成させる。テーマは、「北海道科学大学の良いところとそのPR方法」である。第10週では、グループでのKJ法、第11週は、一人での演習であり、同様にBSとKJ法を使い、連関図法シートを完成させる。テーマは、「自分の夢とそれを実現させる方法」である。

第12週：テーマはワールドカフェ<sup>(9)</sup>である。これは、近年学校や職場などで頻繁に実施されるようになったディスカッションスタイルである。実施場所はメディアスタジオである。固定机や固定椅子のないフリースペースゆえ、折りたたみいすとポータブルツールで、小グループ（5～6）人用の島をつくる。ワールドカフェで扱うメインテーマは「大学を10倍面白くする方法を考えよう！」というもので、これを大テーマとして、小分けにしたサブテーマ①「悪い学校とは？」、サブテーマ②「良い学校とは？」、サブテーマ③「学校にやってもらいた

いことは?」, サブテーマ④「自分でできることは?」という流れで, 各島のモデレータ役の学生以外は, 自由にサブテーマごとに移動する。つまりサブテーマ毎にグループ編成を変えてワークを行う。各島で作成したケント紙(A1版)は, KJ法で整理され図2のようになる。その後, 教室の壁にすべて貼り出し, 全学生にレビューしてもらう。賛同する意見や

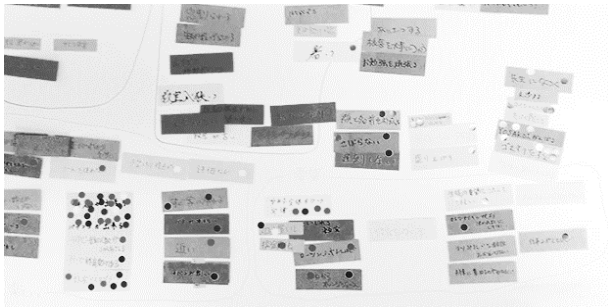


図2 ワールドカフェの結果

秀逸な意見には, シールを貼るように指示する。その結果, レビューと評価が完成し, 学生それぞれの振り返りにもなる。最後に, チーム毎と個人毎に振り返りの評価シートを記入してもらう。この演習は, 高大連携の授業として毎年のように高校生向けにも開講されている。

表6 ワールドカフェの振り返りシート: 個人毎

セッション	考え, 意見, アイディアは出せましたか?	・100点満点で何点? _____点
	考え, 意見, アイディアの整理に貢献できましたか?	・100点満点で何点? _____点
	他のメンバーとうまくコミュニケーションできましたか?	・100点満点で何点? _____点
	自分として頑張ったり努力した点	_____
感想	自分の感想	・感想を自由に書いてください。
	気づいた点	・グループ活動の中で気づいた点を書いてください。
	他のメンバーの印象的な行動や言動	・「『○○役の人の○○という行動(や発言)』が, ○○だった。」という形式で書いてください。

第13週: テーマは, アサーション<sup>(10)</sup>である。アサーションは「さわやかな自己主張」とも言われている, 自分の意見や考えを論理立てて, 冷静に伝える手法の一つである。具体的には, DESC形式を用いる。PREP法と同様にワークシートを用いて同様に演習させる。

第14～15週: 総復習のためのレポート作成と実技試験である。詳細は後述する。

### 3. 評価について

成績は複数回の提出課題(複数回, 20%), 期末試験(実技, 50%), 期末定期試験(筆記, 30%)として評価する。提出課題は, 各回のワークシートのまとめである。また実技試験は, 部屋の入退室動作, 挨拶, 自己PR, グループディスカッション(GD)であり, 評価の配点比率が高い。これは8人を1グ

ループとして, その単位で行う。内容は, 入退室の仕方, 挨拶の仕方, 自己PR(口頭で20秒), GD(8分)である。場所は, メディアスタジオで, 評価はその場で担当教員が行う。評価ポイントは, 予め授業で教え, 練習もしている方法に従って行っているかどうかであり, 学生毎に個人練習や, グループでの練習で実技試験に臨む。テーマは, 候補を提示しておき, 実技試験開始時にその中から提示する。定期試験の筆記試験は, 知識としての確認, あるいはPREP法, DESC法などを応用できるかどうかを記述式で問う形式を主としている。

### 4. 終わりに

学生同士のコミュニケーション機会を増やすことによって, 友達作り, 交流の輪の広がり, 学生間での助け合いのきっかけづくりや醸成(セーフティーネットの構築)など副産物も多い。対面でのコミュニケーション(特に1対1)ができない学生が多いが, このような実践で, 徐々に会話の実践を積み上げ, 潜在的な会話能力が開花したり, 学外での社会人とのコミュニケーションなどで効果がでたりしているといった, 学生の声も聞く。今後は, ルブリック評価などを導入や, アクティブ・ラーニングのスタイルをより明確にするなどが考えられる。

### 参考文献

- (1) 斎藤隆: 友達いないと不安だ症候群につける薬, 朝日新聞, 2005.
- (2) 東山紘久: プロカウンセラーの聞く技術, 創元社, 2000.
- (3) 國分康孝: カウンセリングの技法, 誠信書房, 1979.
- (4) Carl R. Rogers: カウンセリングと心理療法—実践のための新しい概念1～3(ロジャーズ主要著作集), 岩崎学術出版社, 2005.
- (5) 鈴木敏恵: 課題解決力と論理的思考力がみにつくプロジェクト学習の基本と手法, 教育出版, 2012.
- (6) 市坪誠ほか: 授業力アップ アクティブ・ラーニング, 実教出版, 2016.
- (7) 田中博之: アップ アクティブ・ラーニング実践の手引き, 教育開発研究所, 2016.
- (8) 川喜田二郎: 発想法, 中公新書, 1967.
- (9) アニータ ブラウン他: ワールドカフェ, ヒューマンバリュー, 2007.
- (10) 平木 典子: アサーション・トレーニング—さわやかな自己表現のために, 2009.